

【ジャケット】



色分け 灰色のハイライトは状況説明

黄色 暁鞠子様に「薫」の声で読んでいただきたいです

緑 暁鞠子様に「秘書」の声で読んでいただきたいです

【台本】

///トラック①

(秋) 十一月二十日^{はつか} 午後4時5分^{とないぼうしよ} 都内某所

秋、監督の車を待っている

秋 「は〜い♡ 監督さん。こちらですよ」

秋 「よろしくお願いしますね」

秋、監督の車の助手席

秋 「自信ですか……？ もちろんありますよ。

わたしのおっばいが負けたことありますか？」

秋 「ああ、今日のお相手も負けたことないんですね。

ふ〜ん」

秋 「では、その人の対戦動画、観させてくださいね。

タブレット、お借りしますよ」

///動画再生中

薫 「ねえ奥様、まだどちらのおっばいが上か、

わからないのでしょうか？」

女① 「うんんん！ ぐうううう！ 負けてない……

まけてな……！ ぶううううう！」

薫 「あら？ なにかおっしやいました？

聞こえませんが♡」

女① 「んっ！ んぶうう！ んぶうう！」

秋 「この、おっばいで絞め上げてる^{ほう}方が、

私の対戦相手ですよ？ うふふ♡」

女① 「んお”おっ！ ”おおっ！ ぐるじいい！

おっばい……やめでえっ！」

薫 「苦しいですか！ ごめんなさい。

でも、これ喧嘩ですからあ♡」

///動画スキップ

薫 「こんなのはどうでしょう？」

女① 「いやあああっ！ 逝くっ！ 逝くうううう！」

薫 「んふっ♡ 無様ですよ～

もう少し頑張ったらどうです？」

女① 「や、やめ！ ああああぁーッ！！（絶頂）」

///動画一時停止

秋 「対戦相手が弱すぎますよね。いいですね、楽に稼げて。

別に監督さんが思うほど強くないと思いますよ」

///動画再開

女① 「もうやめてえ……こうさん……こうさんします……

おっばいは……おっばいはやめて……しぬ……

しんじゃいます……ぶぐうううう！」

薫 「だめで～す♡ わたしのおっばいで、

窒息してくださいね♡」

女① 「んんんーッ!! んんッ! んんーッ!!

ん……んう……ぐぶ……」

薫 「ふふ……ああ～気持ちいい♡」

秋 「調子に乗っちゃって……うふ♡

おっばいだってわたしの方が大きいのにねえ」

秋 「ん？」

///動画の続きが流れる

薫 「監督さん。これ、撮れてますよね？」

薫 「はあ～い♡ 秋さん、はじめまして。

今度、秋さんと喧嘩する^{かおる}薫と申します」

薫 「ねえ、秋さん……」

薫 「おしっこ噴き出して失神したくなかったら、
逃げた方がいいですよ♡」

薫 「おっぱい大きいって威張^{いば}ってるみたいですけど、
わたしの方がどう見ても大きいですから♡」

薫 「Lカップのおっぱい、見えます？ 死にたいなら……
挑んできてくださいね」

薫 「ああ！ でも、無理しないでください！
おっぱいで窒息しちゃうの怖いですよね？」

薫 「逃げてでも誰も責めませんから♡
じゃあ、勇気があるならやりあいましょ？
ひん・にゅう・さん♡ ばいば〜い」

///動画終わり

秋 「あはは♡」

秋 「たまにいるんですよ。
何回か勝って、勘違いしているバカな女って」

秋 「監督さん？ 今日の露天風呂って貸し切りですよね？」

秋 「よかった〜。なら誰にも邪魔されなくていいですね」

秋 「うふ♡ おっばいで窒息、ですって……

誰に言ってるんでしょうね？

久しぶりに絞め殺したくなっちゃった♡」

秋 「監督さん、一つお願いがあるんですけど、

聞いてくれませんか？」

///トラック① 終

///トラック②

秘書 「秋さま、ようこそいらっしゃいました。

脱衣所はこちらになります」

秋 「ありがとう。素敵な露天風呂でやらせてくれるのね」

秘書 「監督の計^{はか}らいです。思い切りやり合えるように、と。

お着替えいただいたら、奥の扉へどうぞ」

秋 「わかったわ。あなたも大変ね」

秘書 「お気になさらず。本日のお相手の薫さまですが、

すでに露天風呂でお待ちです」

秋 「そうなのね。うっふふ……楽しみ♡」

秘書 「今回は流石に激闘^{げきとう}必至^{ひっし}かと思われます。お気をつけて」

秋 「ふ～ん。じゃあ5分で絞め潰すから、

管理室からよく見ててね。

どうやら薫さん、格の違いがわかってないらしいの」

秘書 「承知しました。しっかり見届けます」

秋 「じゃあ、行ってくるわね」

秋、ドアから露天風呂に出る

秘書 「はあ……」

秘書 「どちらも信じられないほど負けず嫌いですね」

秘書 「今日は壮絶な一日になりそうです」

場面転換

(秋) 露天風呂 壺湯つぼゆ

薫、壺湯に入って監督と話している

薫 「ええ、もちろん、圧勝すると思いますよ。

監督さんも、わたしのおっぱいが上だと思いませんか？」

薫 「そうですね～向こうが泣いて謝ってきたら、

許してあげてもいいかな」

秋 「だれが泣いて謝るんですか？」

薫 「あら、噂をすれば……」

薫、壺湯から立ち上がる

秋 「お待たせしました」

薫 「逃げずに来てくれたんですね。ありがとうございます」

秋 「逃げる理由がありませんから。

動画では散々あお煽ってくれてありがとうございます」

薫 「あお煽るなんてとんでもない。本当のことですから」

秋・薫、睨み合い

秋 「監督さ〜ん。ここから先は女同士のお話があるので」

薫 「出て行ってもらえますか？ 止められても困りますし」

秋 「ふふ♡ 失礼しますね」

秋、薫の入っている壺湯に入る

薫 「あら。壺湯つぼゆに2人入るのは、マナー違反ですよ？」

秋 「じゃあ追い出してみたら？ できないと思いますけど」

薫 「まあ♡ 冗談がお好きなんですね」

薫、秋の胸を握る

薫 「このおっぱいと、
せいぜいJカップくらいでしょうか」

秋 「残念でした。Lカップですよ〜
ご自分のサイズを言っちゃいましたか？」

薫 「ご心配なく♡ わたしもLカップですから」

秋 「あら、そうなんですか？ それで？
そのおっぱいで私を窒息させるんですしたっけ？」

薫 「違いますよ。窒息させて、おしっこも漏らさせます」

秋 「随分な自信ですね？ そのプライド……

バキバキにへし折ってあげますね。

このおっぱいで♡」

薫 「できますかね？ そんな貧乳ひんにゅうで」

秋 「貧乳ひんにゅうのくせに口だけは達者たっしゃなんですね」

薫 「あら？ 自分が負けないと思ってます？」

秋 「今日窒息しちゃうのは、そちらだと思えますよ♡」

薫 「それは楽しみですね♡」

秋 「うふふ♡ ええ、楽しみ♡」

秋 「あ。あと、監督とさっき話した時、

本当に死ぬくらい絞めていいか聞いたんですけど」

秋 「『救急車で済むくらいで勘弁してくれ』ですって」

薫 「あら、良かったですね！ 命の保証ができて！

ぎりぎりまで苦しませてあげる♡」

秋 「病院に運ばれたあと、

『おっぱいで窒息させられた』って、はっきり言ってね」

薫 「あはは♡」

秋 「んふふ♡」

薫 「ではお互い、覚悟があるってことで……」

秋 「そろそろ始めましょうか。女の潰し合い」

薫 「ふふ……思いっきり絞めていいですよ」

秋 「そちらこそ……」

薫 「んんんん！」

秋 「ああああっ！」

場面転換 管理室

秘書 「秋さま。25歳。バスト110センチ、Lカップ。

戦績、^{じゅっせん}十戦全勝」

秘書 「薫さま。25歳。バスト110センチ、Lカップ。

戦績、九戦全勝。お互い子持ちで、おっばいも出ます」

秘書 「監督、救急車呼ぶなら、

ご自分で説明をお願いしますね」

秘書 「どちらも^{ひんし}瀕死になるまでやりあうつもりです」

秘書 「ほら、闘いが始まりますよ」

///トラック② 終

///トラック③

秋・薫、壺湯の中で抱きしめ合っている

秋 「ふうふうふうふうふうふうふう！」

薫 「はあはあはあはあはあはあはあはあ！ んぐううう！」

秋 「ふうふう！ “んんんんっ!!”

薫 「ゝ あああっ！ はあはあはあ！」

秋 「母乳、嘔いちゃってますよ？ 苦しいんですか？」

薫 「あなたの母乳ですよ？ わたしは負けてませんけど？」

秋 「はあはあ……あらそうですか！」

薫 「んあああああ!!」

秋、壺湯の端に薫を抑え込む

秋 「ほら……落っこちちゃいますよ♡ 雑魚おっばいさん」

薫、秋を強く抱きしめ返す

薫 「はあはあはあはあ！ こんのおおおおお!!」

秋 「ゝ あああああッッ!!」

薫 「どうしました？ おっばい潰れちゃいました？♡

“んおおおおおッッ！”

秋 「まだ勝つつもりなんですね！

絞め潰し合いなら、負けませんよ……

はあはあ！ ううう！」

薫、秋の髪を引っ張る

薫 「はあはあ！ ほらあ！ あなたが落ちるのよ！！」

秋、薫の髪を引っ張り返す

秋 「くっ！ おっばいで勝てないから髪引っ張るんだ？

情けないですね♡ おかえしよおおお！！」

秋・薫、蹴り合う

薫 「あああッッ！！ いったああああ！！ このおおお！」

秋 「んあああッ！ 行儀の悪い脚あしねえ！！ ふんっ！」

薫 「ぐっ！ ああああ！ おっばいばかり！

蹴らないでください！！ 妬ねたみですか!? このおおお！」

秋 「だれが！ あなたのおっばいなんか！ 妬ねたむのよ！

んあああっ！ ぷふううっ！ 顔、蹴ったわねえ！！」

薫 「ぷふううっ！ そっちこそ！ やりましたねこのっ！」

秋 「ぷふううっ！ なによおっ！ ぷふうっ！」

薫 「ぶふううっ！ んぶふううっ！」

秋 「んんんんんんッ!!」

薫 「んんんんんんッ!!」

秋 「はあ! はあ! はあ! はあ! はあ!」

薫 「ふう! ふう! ふう! ふう! ふう!」

秋・薫、立ち上がる

秋 「ふんんんっ! 押し出してあげる♡」

薫 「んぐううっ! 乳相撲ちちずもうで勝つ気ですか♡」

秋 「んんんんッ! ふんんんんんんッ!」

薫 「んんんんッ! 圧あつがないですね、雑魚おっばいさん♡」

秋 「はあはあ! そっちが潰れてるのよ? 勘ちがい女♡」

薫 「んん♡ はあはあ! まけませんよ…… はあはあ」

秋 「わたしだって……はあはあ! んんんっ……♡」

薫 「んんんんっ……♡ 落ちなさいよおおおッ!」

秋 「はあはあ!! こっちのセリフよおおおッ!」

薫 「くううううううッ!!」

秋 「んああああッ!! あッ♡ こんな……ときに……!」

秋、母乳が胸から出始める

秋 「で、でちゃう♡ はああああああッ!!」

薫 「うううううんッ♡ こんのおおおッ!!」

秋 「あああああああッ!!」

秋、壺湯から薫に押し出される形で落下。

秋、仰向けに倒れ込む。

薫 「はあはあはあはあはあはあ……んふ♡」

秋 「はあ！ はあ！ はあ！ はあ！ はあ！」

薫、壺湯から出て秋の前に。

薫 「弱いですねえ♡

ごめんなさいね、おっぱい大きすぎて♡」

秋 「ふう……ふう……ふう……潰す」

薫 「母乳まで嘔き出しちゃって♡ 恥ずかし～♡

悔しかったらやり返したらどうですかぁ？」

秋 「あは♡」

秋、立ち上がる。

秋 「謝れば半殺^{はんごろ}しで許そうと思ってましたが、
やめました♡」

薫 「いいですよ～別に。 謝る気、ないんで」

秋 「あら、そうですか～」

秋 「ねえ、薫さん。こういう撮影って……

事故はつきものですよね？」

薫 「はい♡ わたしもそう思いますけど？」

秋・薫、再び接近

秋、薫の両乳首を指で潰す

薫 「んっ♡ くあああああ！」

秋 「ふふ……乳首、握り潰してあげる。 ああああんッ！」

薫、秋の乳首を握り返す

薫 「お乳の潰し合いですか？ 受けて立ちますよ？」

秋 「 ああああああッ!! いい度胸ですね……」

薫 「くうううううッ! いったあ……ッ!!」



秋 「はあはあはあ！ 痛いなら離れたらどうです？」

薫 「ふうふうふう……！ そっちこそ、
本当は痛くてやめてほしいんでしょ？」

秋 「はあはあ！ じゃあこのまま、^{ひね}捻り潰してあげる♡」

薫 「どうぞ♡ その前に……ふうふう！ 握り潰します」

秋 「くっ!! ん”ああああああああああああ!!」

薫 「”あああああああああッ!! いやああああああ!!」

薫 「乳首ばかり!! 握るんじゃないわよ!!」

秋 「んあああああああッ!!」

秋 「そっちこそお！ おっぱいに！ 爪、立てるなあ!!」

薫 「ふう！ ふう！ ふう！ ふう！ ああああああ！

ちぎれるうううううう！！」

秋 「ああああああ……！！ もげるううう！！」

秋 「この……メス豚^{ぶた}あ！」

薫 「なによ雑魚^{ざこ}ばい！」

秋 「こんのおおお！！」

薫 「このおおおお！！」

秋・薫、同時に股間を蹴り合って地面で悶える

秋 「はあああああ！ ああああっ！ まんこが……

んううっ！ モロはいった……」

薫 「ああああ……！ あああ！ あああ！ このお！

蹴ったわねええ！ はあ！ はあ！ ああああ！」

秋 「ああああ！ ああああっ！ なによ、痛かった？」

薫 「んううっ！ ああああああッ♡」

秋 「電気あんまは好き？ ねえ!？」

薫 「んおおおおおおおおッ！！ おッ！！ おふっ♡」

秋 「あははあ♡ いい眺^{なが}め！ そんなにこれがいいんだ？」

薫 「ああああッ♡ んああああああんッ♡」

秋 「はあはあ♡ 気持ちよくて力抜けちゃった？

じゃあ——」

秋 「次は苦しいの行きましょうか♡」

薫 「はっぶうううううう！」

秋 「ふふ……♡ 言いましたよね？ 窒息させるって」

薫 「んぐっ！ はあはあはあ！ ぶううう!! ぶぐっ!!」

秋 「Lカップおっばい、お味はいかがですか？♡ ねえ!？」

薫 「あああッ！ んぐっ!! むぐう!! はあはあ!!

おっばい^{ずもう}相撲で負けて、怒ってます？ むぐうううッ!!」

秋 「お仕置き……足りてないみたいね——

本気で絞め潰す」

薫 「あぐううッ!! ぐッ!! があッ……んんッ……んぶ」

秋 「ほら？ 空気吸わなくていいの？」

薫 「ん”んんんんん!! (放尿)」

秋 「あらあ？ 奥様？

おしっこ漏らすには早すぎないかしら？」

薫 「はあはあはあ！ おえええッ!! んッ!! っぐう!!」

秋 「さっきマナーがどうか言ってたわよね？
温泉でおしっこするのはいいんだ？」

薫 「ぷはああッ!! はああッ!! このおおおお!!」

秋 「ああああッ!! くうう!! ちくび……!
爪立てるなって!! 言ったでしょおおッ!!」

薫 「はあはあ!! うるさい! おんなの喧嘩でしょ!？」

秋 「くッ……んあああッ！」

薫 「はあッ! はあッ! おえええッ……
母乳、よくも飲ませてくれましたね？」

秋 「なによ、はあはあ……もっと飲んでいいのよ?
いっぱい詰まってるから」

薫 「雑魚乳首のくせに！」

薫、秋の股間へ手マン

秋 「おっぱいで死にかけてたのはどっちかしら!?
ああんッ!! はあはあ! はああああん♡」

薫 「あら、どうしたんですか？」

秋 「はあはあ♡ はあはあ♡」

秋 (なに? こいつの手マン……ちからが……)

薫 「あなたのプライド……ぶち壊してあげる♡」

秋 「` おオオオオオッーーーッ♡」

薫 「ねえ？ これ喧嘩ですよ？
そんなに受け身でいいんですか？」

秋 「はあはあ♡ ただの手マンで…… んおおおおッ!!」

薫 「はあはあ♡ んんんおッ♡ はあはあ♡ ふふ……
必死に返してますけど……後ろ奪われたら負けですよ♡」

秋 「んおッ!? はあああああ♡ はあああああ♡」

薫 「秋さん、ふふ……♡
そこの岩の影、カメラあるのわかります？」

秋 「はあはあはあ♡ んぐ!? あああ！」

薫 「ねえ、もう来てるんでしょ♡ カメラに向けて、
噴射してくださいよ♡」

秋 「だれがあ!! あんたなんかの指で!
はああああ♡」

薫 「^{からだ}身体は正直ですよ～ ほら♡ ほら♡ ほら♡」

秋 「い、やああああ♡ ぐ……”う……うう!! ……お!!」

薫 「いつまで耐えるんですか♡ はあはあ♡」

秋 「うぐッッ!! あああ!! あああ!! “ああッ!!”

薫 「ほら、カメラに向かって♡」

秋 「んおおおおおおおおおーッ♡!! (絶頂)」

薫 「あはあ♡ 見事な潮吹きですよ、奥様」

秋 「はあ! はあ! はあ! はあ! はあ! はあ!」

薫 「逝かせ合い勝負でしたら、わたしの勝ちですね？」

秋 「はあはあ♡ 先に逝かせたら勝ちみたいな、
ぬる
温い勝負してるんだ？」

薫 「負け惜しみですか? 潮吹き女さん♡」

秋 「おっばいで負けてるから、逝かせにきたんでしょ？」

薫 「強がるのは結構ですけど……
まだ、わたしが有利な体勢ですよ♡」

秋 「くっ! んああッ!」

薫、秋を後ろから抱きしめて立たせる。

薫 「んふ♡ せっかくの温泉でしょ?
お湯の中で語り合いましょうよ♡」

薫、秋をバックドロップのように後ろに投げる

秋 「んっ! んあああああーッ!!」

場面転換 管理室

秘書 「監督……」

秘書 「監督。いつまで録画を観てるんですか」

秘書 「秋さまの潮吹きばかり見直すの、やめてください」

秘書 「二人とも今は温泉の中ですが……」

秘書 「薫さまのペースが続いています。

あれだけ後ろを取られ続けたら、秋さまでもきついかと」

秘書 「あっ……！」

秘書 「監督。カメラから目を離さないで」

秘書 「薫さま、あのプロレス技みたいな絞めで、

何人も窒息させてます」

///トラック③ 終

///トラック④

場面転換 露天風呂温泉内

秋 「んおあああああ!! んおおおおッ!! ぶうう!!

んぶううううううう!!」

薫 「はあはあ……がっちり極きまりました。 だい大の男が、

泣きわめく技ですよ♡」



秋 (いきが……ぐ……いきがあ……!)

薫 「はあはあ……背骨が痛い？ それとも腰？

あ～、息が苦しすぎてそれどころじゃない？」

秋 「う……ぐう……!! ぶはあああ！ ぶはあああああ！

んぶうううううううううううう!!」

薫 「誰が息していいって、言いました？」

秋 「んぶううっ！ んぶっ！ おえええ！ はあはあ

ぐぞおおおおおおお!!」

薫 「はあはあはあ！ 泣かせてやる！」

秋 「ぶうううッ!! うっぶ!! うっぷ!!」

薫 「ほら♡ 喧嘩でしょ？ はあはあ！ 一方的だと、

いじめてるみたいじゃない♡」

秋 「ぶぐ……!! んぶっ!! むぶうう～ッ!!」

薫 「ほら、窒息しちゃいますよ♡」

秋 「はあ！ おえっ！ “おおおッ！”

薫 「泣いて謝ったら、許すかもしれませんよ？

ねえ？ どっちのおっぱいが強いかしら？」

秋 「ぶはあッ！ はあ！ はあ！ メス豚があ！」

薫 「死にたいみたいね潮吹きおんな！」

秋 「ぶううううッ!! んぶううううううう!!」

薫 「ああああああああッ!! 髪い! やめなさいよ!」

秋 「んぶうううううッ!!」

秋 (なんでもいい……掴めるところ、ぜんぶひっぱる……)

薫 「ああ! はあはあ! ^お堕ちなさいよ! ほらあ!」

秋 「があ……っ! ぶはあ! ぶはあ! ^{こんくら}根比べよお!!」

薫 「ああああ!! いったあああ!! はあはあ!

堕ちろお……! おっばいで、無様に窒息しなさい!」

秋 「ぜったい……ふりおとす……! んぶううううう!!」

薫 「はあはあはあはあはあ!! あああ! あああ!

うぎいいいい!!」

秋 「んぶ……ッ!! んぶう……ッ!! んぶううう!!

ぐぶ……! んぶ……!」

薫 「んっ! っくううううう!! あああああああッ!!」

秋 「ぶううううううううううう!!」

薫、秋の顎から手が離れ、後ろに転倒

薫 「ぶはああああああッ!! はあ……はあ……!」

薫、秋を蹴り飛ばし、咳き込む

薫 「ふはあああッ！ ふはあああッ！ おええっ！
けほっ！ けほっ！」

薫が湯から上がり、仰向けに倒れる

秋 「先にあがるなら言ってくださいよ」

薫 「はあはあはあ！ おえ……ッ！ はあはあ」

秋 「拷問ごうもんはこれからですよ♡ 逃がしません」

薫 「んんんんんっ!! ぶっ!! ぶぶっ!!」

秋 「はあはあ♡ 袈裟けさがた固めて知ってます?♡」

薫 「んぶうううううッ!! “ああ!! んぶっ!!」

秋 「わたしみたいな爆乳が極きめると……死にますよ♡」



薫 「ぶうううッ！ ぶううう!! “おおおッ!! (放尿)」

秋 「やだ♡ 苦しくなるとおしっこ漏らすの、
やめてくれませんか？ 汚いから♡」

薫 「ぐ……ぐう……！」

薫 （もうちょっと……もうちょっとで……！）

秋 「ほら♡ 堕ちろ♡ 堕ちろ♡ わたしのおっぱいで、
地獄にいきなさいよ！」

薫 「んんんんん!! はあはあ!! おええッ!!
ぐぶううううッ!!」

薫 (まんこにさえ……手が届けばっ……！)

秋 「どっちが上かしら!? ねえ!？」

薫 「うええええッ!! けほっ! けほっ!

殺してやるわよ……くそおんな……ぶぐうッ!!」

秋 「立場がわかってないようね！」

薫 「ぐっ!! ぶううッ!! んぐううううううう!!」

秋 「あはは♡ 鼻から母乳が逆流してるわよ?

もう限界でしょ! ほら♡ 堕ちろ♡

わたしの勝ちよおおお！」

薫 「ぶぐじゅッ! ぶぐじゅッ！」

薫 (もう……すこし……)

秋 「窒息しちゃった!? からだ、^{けいれん}痙攣してるわよ!

はああああああああああん♡」

薫 「ちゅぱっ♡ むちゅ♡ んじゅ♡ むちゅうううう♡」

秋 「はあ♡ はあ♡ はあはあ♡ こんな……

おっぱい吸われたくらい……

おほおおおおおおお!!♡」

薫、伸ばしていた手が秋の股間に到達し手マン

薫 「ぷはああッ！ はあ！ はあ！ はあ！ はあ！

はあ！ はあ！ はあ！ はあ！ はあ！

わたしの手マンのテク……忘れてないですか……」

秋 「あああああ♡ あああああ♡ ん”おおっ♡

”おおおおっ♡ い、やああああ♡」

薫 「はあはあはあはあ♡ 逝けっ♡ 逝けっ♡ 逝けっ♡」

秋 「んくっ♡ あああああああー———ッ♡

逝っくうううううー———ッ♡ (絶頂)」

薫 「かはあっ！ はあ……はあ……はあ……はあ……」

秋 「おおっ……おお……おおっ……♡」

秋・薫、お互いが距離を取る

秋 「はあはあ……死にぞこないのくせに……」

薫 「はあはあ……お互い様ですよね……

あなたも効いてるでしょ」

秋 「ふう……勘違いしてるみたいだから、

手マン勝負……やってあげますよ」

薫 「あは♡ わたしに挑むんですか？ 潮吹き女が」

秋 「意識飛んだら、どうなるかわかってますよね？

今度こそ絞め潰しますから♡」

薫 「そっちこそ、逝き果てたら終わりですよ♡」

秋 「ふふ♡ 自分の心配だけしてくださいね……♡」

秋・薫、立ってお互いの肩に顎をのせ、手マン開始

薫 「んっ♡ はああああああああああ♡」

秋 「はあはあ♡ ああああ♡ のおおおっ♡」

薫 「ほら♡ また、潮吹きすれば？♡」

秋 「はあはあ♡ あなたこそ、足震^{ふる}えてるわよ……

おおっ♡ んおおおおおっ♡」

薫 「はああ♡ はああ♡ どうしました？」

秋 「ああああ♡ おおおお♡ おおおっ♡ おおおおっ♡」

薫 「はあはあ♡ 逝けえええ！ 逝けえええ！」

秋 「あええええ♡ あえええ♡ “おおおうっ!!”

薫 「ほら♡ 相撲じゃないんだから……膝ついていいのよ。

情けなく倒れなさい♡」

秋 「ああああ♡ ああああっ……ッ！

いっくううう!! (絶頂)」

薫 「あは♡ 1回目……！ はううううううううッ♡

んおおおおおっ♡ “おおおおおーーッ♡」

秋 「はああ♡ はああ……♡ わかってきた♡

わかってきたわよ……♡」

薫 「はうっ♡ あっ♡ あっ♡ だめえ♡ くうう♡」

秋 「あなたも逝きたいんでしょ♡ 逝け♡ 逝け♡」

薫 「んんんーッ♡ だんめええええ♡!! (絶頂)」

秋 「はあはあはあ♡ はあはあ♡ 1回目え……♡

弱いところ……ばれてますよ♡」

薫 「はああああ♡ ああああ♡ はああああ♡」

秋 「ああああ♡ ああああ♡ ^{ほねぬ}骨抜きにしてやる……」

薫 「あまくみないで……くださいよ♡」

秋 「ああああ♡ ああああ♡ くっ……うううう!!

もう負けないわよ……！」

薫 「ああああ♡ ああああ♡ はあはあ♡ んんんん!!」

秋 「にかい……め……おおおおおおおっ!! (絶頂)」

薫 「にかいめっ……んおおおおおおおっ!! (絶頂)」

秋 「あひいいいっ♡ あひいいいっ♡」

薫 「あへええ♡ んえええええ♡ 倒れなさいよ……」

秋 「んおお♡ そっちこそお……はあはあ♡」

薫 「あああっ！ ふううっ!! ポルチオお♡ だめえ♡」

秋 「ああ♡ 逝けえ♡ 逝けえ♡」

薫 「ああ♡ はああ♡ いやあ……♡

逝くもんかあ……♡ 逝くもんかあ……♡ うああ♡」

秋 「さん、かい、めえ……！」

薫 「んおおおおおおおー……ッ!! (絶頂)」

秋 「あはあ♡ あはあ♡ あはあ♡ からだ！

もたれないで……たおれないさいよ！」

薫 「だれがああ……あんたなんか……負けるかあ……」

秋 「ああ♡ くああああああ♡」

薫 「ほら……ポルチオのお返しよお!!♡」

秋 「はあはあはあ♡ はぐっ!! あああ♡」

薫 「はあはあはあはあ！ はあはあはあはあ！」

秋 「んおおおおおおおー……ッ!! (絶頂)」

秋・薫、共に転倒

秋 「あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡ あへえ♡」

薫 「` おおう♡ ` おおう♡ ` おおう♡ ` おおう♡」

秋 「はあはあはあ……まだ……まだあ……」

薫 「はあはあはあ……いしき……とばしてあげます……」

秋 「のうみそ……こわして……あげるわ……」

薫 「てまんしょうぶは……」

秋 「これからが……ほんばんよ……」

秋・薫、両者仰向けになって手マン勝負

薫 「はあはあはあはあ♡ ああ♡ “ああああ♡

もっと股……開きなさいよ！」

秋 「そっちこそ、閉じるなあ！ はあ！ はあ！

にげるんじゃ♡ ないわよおお♡」

薫 「ああああ♡ あああああ♡ 逃げてないわよ！

ほら、お空に向かって潮吹きしてください!!」

秋 「ん“おお”おお”おお♡ やめっ！ くうう♡」

薫 「ここがよわいんでしょ♡ ほらああああ！」

秋 「ん“おおおおおッ♡ “おおおおおおッ♡

あんたは……ここでしょおおお♡

潮吹き！ しなさいよおおお!!♡」

薫 「ああああ！♡ ああああ！♡ 逝く！

逝っくうううううーッ♡（絶頂）」

秋 「ああああ！♡ ああああ！♡ 耐えれないっ♡

ああああ♡ この程度の……手マンでえ！！

“おおおっ♡ ん”おほおおおっーッ♡（絶頂）」

薫 「んえええ……んええええ……うっ……おええ……」

秋 「あはあ……あああ……んえっ……か……かは……」

秋・薫、再び股間に深く指を挿入

秋 「んええっ♡ け、けっちやく……」

薫 「ああああッ♡ つけてやる……」

秋 「いけえ……いけえ……いけえ……あああ……♡

こわれろお……あああ♡ はあ♡ ぶっこわれろお♡

んぐっ……い、け……んぐううう！！」

薫 「逝けっ……いけええっ……いけえええっ……

つぶす……つぶしてやるう♡ ああああ♡ ああああ♡

そこは……あああ！！」

秋 「ゝんおほおおおおおおおおーッ（絶頂）」

薫 「ゝんおほおおおおおおおおーッ（絶頂）」

場面転換、管理室

- 秘書 「監督、想定より逝かせ合いが多くなりましたね。
- 温泉に混ぜてある媚薬びやくの影響と思われます」
- 秘書 「状況ですが、秋さまの絶頂回数ぜっちょうかいすうが十五回。
- 対して、薫さまの絶頂回数ぜっちょうかいすうは十三回。
- ただ、おっばいで窒息寸前ちっそくすんぜんまで追い込んでいる回数は、
- 秋さまの方が2回ほど多いです。ほぼ互角の闘いですね」
- 秘書 「まったく……
- どこでこんなおっばい自慢たちを見つけてくるのやら」
- 秘書 「ほら、またおっばいで窒息させあっていますよ」
- 秘書 「お互いの顔をおっばいで絞めつけ合ってます。
- 母乳まで利用して……
- そうまでして勝ちたいものでしょうか」
- 秘書 「爆乳自慢のプライドってやつですか。そうですか。
- まあ、貧乳の私にはどうせわかりませんが」
- 秘書 「監督。おっばいではあの方たちには及びませんが、
- 逝かせ合いなら負けませんよ」
- 秘書 「わたしの次の相手も、早く探してください」

秘書 「それはそうと……まだ止めなくていいんですね？

このままだと本当に救急車ですよ」

秘書 「さっきからお互い、

気を失う寸前まで絞め合っていますもの」

///トラック④ 終

///トラック⑤

場面転換 露天風呂 岩場

秋・薫、相手の顔をおっぱいに抱き込んで、

窒息させ合う（おっぱいの69のような形）

秋 「ぶぐ……んぶ……んぶ……ぶううう……

ころして……やるう……ぐぶ……ぶううう！」

薫 「ぶへええ……んぶ……ぶへえ……あんたがさきに……

しぬのよお……！ んぶ……ぐぶううう！」

秋・薫、相手を胸から離す

秋 「ぷはあああああ！ ぷはああああっ！

はあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ！」

薫 「んおええええっ！ ぶへええええっ！

んはあああっ！ はあはあはあはあはあはあ！」

秋 「からだ……うごけえ……！ はあはあ！

かつのは……わたし……」

薫 「わたしよお……こんどこそ……つぶす……はあはあ」

秋・薫、再び胸で絞めあう

薫 「んああ……んああ……くたばりなさいよおおお！

んぶううううううううっ！！」

秋 「ぶぐっ！ んぶううううう！ おち……ろお！」

薫 「んぶうううう！ んぶうううううううう！」

薫 (しぬ……じぬう……いきがあ……！)

秋 「んぶっ！ ぶううううううーッ！！」

秋 (し、しぬ……く……そお……しぬう！)

薫 (もう、だめ……)

秋 (いしき、が……)

秋・薫、再び相手を離す

薫 「ぶはあああああ！ ぶはああああっ！

はあはあはあはあはあはあはあはあはあはあはあ！」

秋 「けほおおっ！ けほっ！！ かはああっ！ はあはあ！

おええええっ！ はあはあはあはあはあはあ！」

秋 「あとすこしで……やれるのにい！ はあはあ！」

薫 「はあはあ！ もういっぽで……ころせる……」

秋 「わたしの……おっぱいが……」

薫 「いいえ、わたしの……おっぱいが……」

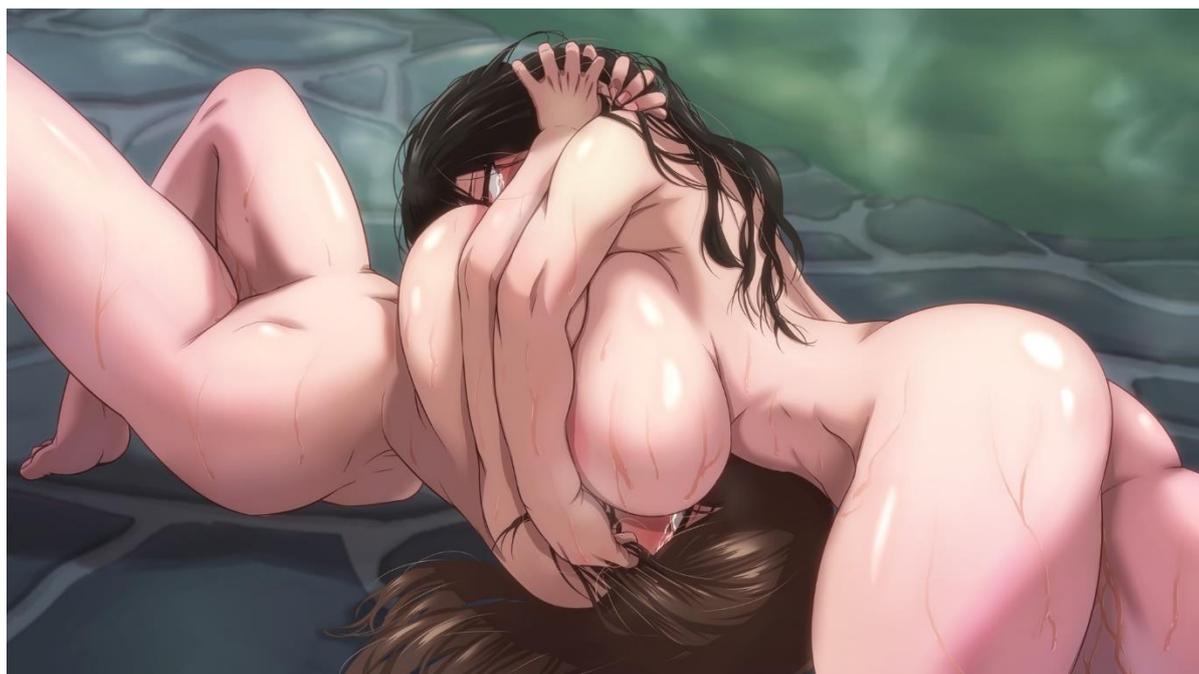
秋 「さきに……しとめる……！」

薫 「さきに……しとめる……！」

秋・薫、再び胸で絞めあう

薫 「ぶぐううううっ！ ごぶ……ぶぐ……！」

秋 「おぶうううううっ！ んぶ……ぐぶ……」



薫 「ぶええええっ！ はあはあ！ んぶうううううっ！」

薫 (ぶざまでもいい……すこしでも……くうきを……)

秋 「おええええっ！ はあはあ！ ぐぶうううううっ！」

秋 (こいつより……一秒でもながく……呼吸をうばう……)

薫 「ぐ、ぶうううううう!! ごおおおっ……ぐう……」

秋・薫、ごろごろと上下が入れ替わる

秋 (うえから……おしつぶすううう……!)

薫 (かんたんに……うえは……わたさない……)

秋 「んぶううううううううううっ! ぶふ……」

薫 「つぶ……す……」

秋 「つぶ……すう……」

秋・薫、温泉に落下

秋 「ぶぐ……ぶう……」

薫 「ぶぐ……ぶぐ……」

秋・薫、相手を離す

秋 「ぷはあああっ! ぷはあああっ! ぷはあああっ!

ん! おええええっ! けほっ! げほっ!」

薫 「ぷはあああっ! ぷはあああっ!

けほっ! けほっ! く……おえええっ!」

秋 「はあはあはあはあ! これで最期よ……」

薫 「はあはあはあはあ! そうですね……」

秋 「おっばい同士で……」

薫 「絞め殺し合いましょ……」

秋 「はあ……はあ……はあ……」

薫 「ふう……ふう……」

秋・薫、湯の中で立ち、胸と胸を当てて、

肩に顎を寄せ合い、抱きしめ合う

秋 「んんんんんんんああああーっ！」

薫 「ん”おおおおおーっ！ こほおッ！」

秋 「けほっ！ けほっ！ いきが……!! おええっ！」

薫 「おええっ！ ぐるじい……!! ん……ごほっ！」

薫 (くうきが……すえない……)

秋 (肺が……つぶ……れる……)

秋 「あああっ!! ”おおっ!! うぷっ！ ぐぶ！」

薫 「か……かはあ……!! うぎい……!!」

秋 (それでも……わたしのおっぱいのほうが……

つよい……！)

薫 「うえええええええええッ!!」

薫 (わたしのほうが……つよい……！)

秋 「おえええええええええッ!!」

秋 「ころ……すう……！ が……があ……！」

薫 「ころして……やるう……！ かはあ……！」

秋 「あと……すこしで……！ おええええっ！」

薫 「もう……すこし……！ んええええっ！」

薫 「お……んお……が……があ……
……ぶへえええっ!!」

秋 「あ”あっ……ぐぶ……ん……ぶ……
……ぶへえええっ!!」

秋・薫、意識を失い後ろに転倒

秘書、秋を湯の中で抱きかかえる

秘書 「秋さま。秋さま……！」

秘書 「監督。勝負は引き分けでいいですよ？
もうどちらも、指一本動かさせませんよ」

秋 （よく……………ない……………）

秘書 「救急車はすでに呼んでます。
監督から、責任をもって説明をお願いしますね」

秋 （よく……………な……………い……………）

（秋） 一か月後

秋 「お久しぶりね、秘書さん」

秘書 「秋さま、お久しぶりです。身体からだはもう良いのですね」

秋 「全然問題ないわ。退院たいいんまで時間かかっちゃったけどね」

秘書 「それはなによりです」

秘書 「秋さま、それで……本日の闘いですが、
その、救急車は呼べないとのことですよ」

秋 「いいわよ～わたしは。ぜんぜん問題ないわ」

秘書 「ですので、
本日は決着がつくまでのデスマッチになるかと」

秋 「わかったわ。ちゃ～んと、決着つけてくるから。
それじゃあね♡」

秘書 「お気をつけて」

秋、露天風呂へ入る

秘書 「はぁ……………また、大変な一日になりそうですね」

場面転換 露天風呂 壺湯

秋 「またそこにいるんだ」

薫 「あら？ 遅かったじゃないですか」

秋 「あの後、目が覚めたのはわたしが先だったみたいね。

わたしの勝ちかしら？」

薫 「それを言うなら、退院したのは私が先ですよ♡」

秋、薫がいる壺湯に入る

秋 「あらそう。 んふ♡ それでは、失礼しますね」

薫 「ねえ、^{つぼゆ}壺湯に二人入るのはマナー違反って、

前に言いましたよね？」

秋 「じゃあ追い出せばいいって、言いましたよね？」

薫 「うふふ♡」

秋 「あはは♡」

薫 「聞いてますか？ 今日はデスマッチですって」

秋 「知ってるわよ～。満足いくまでやり合えるわね♡」

薫 「……それじゃあ、再会できたことですし」

秋 「……セカンドラウンド、始めましょうか？」

秋 「^{ひん}貧・^{にゅう}乳・さん♡」

薫 「^{ひん}貧・^{にゅう}乳・さん♡」

///トラック⑤ 終